

## 第 2 回東海村“自分ごと化会議” 議事概要

参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自分ごと会議メンバー           <ul style="list-style-type: none"> <li>・無作為抽出で選出された村民 9名，県立東海高校生 2名</li> </ul> </li> <li>■コーディネーター           <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊井 成和（一般社団法人 構想日本 特別研究員）</li> </ul> </li> <li>■ナビゲーター（以下、ナ）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・襟川 文恵（横浜美術館 経営管理グループ渉外担当）</li> </ul> </li> </ul>
-----	--

### ◇ 開会（山路）

### ◇ 自己紹介

### ◇ アンケート結果について

- アンケートの中で記載された，自由意見の一部を紹介※第 1 回会議アンケート結果参照

### ◇ 第 1 回会議の振り返り・第 2 回会議の進め方

- 施設レビューは，4 つの施設区分に従って，合計 7 施設を中心に議論を実施
- 第 1 回会議は，ありたい姿，有効活用，収益性をテーマに施設区分ごとに議論を実施
- 第 2 回会議は，「機能別（マズローの欲求 5 段階説）ごと」に議論をする

### ◇ 全体協議

#### 1 公共施設の“ありたい姿”を考えるための前提を整理する

バックキャストिंगの考え方，時間軸，現状把握と分析を整理したが，追加の意見はないか？

- 特になし
- ナ）参加者一人ひとり立場が異なっているので，共感できない部分を理由も含めて共有することが重要

#### 2 公共施設全体として共通する“ありたい姿”を考える

ビジョン，価値・目的，連携，周知・PR，アクセスしやすさ，多世代にわたって誰もが使いやすい優しい施設，利用しやすさに関して追加の意見はないか？

（ビジョン）

- ナ）公共施設の機能を捉えるイメージ図は人それぞれで，この形をどう捉えるかがビジョンになるのではないか
- ビジョンを考えるにあたり，より多くの人が満足できる着地点を探すことが大事ではないか
  - 最終的なビジョンが大きくブレなければ，途中の政策レベルのものについては変化しても良いのではないか
  - ビジョンを文字化することは難しいが，「生活しやすい」，「安心して暮らせる」など，参加者間で共通したイメージを持っているのではないか
  - 村の資源を生かすことを考えたとき，周辺自治体，県，国など広い枠（広域利用）で捉えることも必要ではないか

- 自分ごとと化会議終了後も、定期的に村民と行政間で情報をやり取りして、ブラッシュアップする仕組みを作ることが大切ではないか
- 自分ごとと化会議の提案を、参加者以外の人がどういった受け取り方をするか把握することが大切ではないか

(価値・目的)

- 今後のコミセンの役割としては、地域の人と人との繋がりだけでなく、より幅広い人と人との繋がりを作る場としての可能性を持っているのではないか

(連携)

- 昔は社会の中で相互的に助け合うことを当たり前として行っていたが、現在はだんだん弱くなってきているように感じる
- 命-安心-社会は連鎖しており、社会の繋がりがなくなると命や安心が守れないことにも繋がるのではないか

(周知・PR)

- ナ) 外に向けた村の魅力発信の話と、住民に対する情報不足に分けて考えると整理しやすいのではないか
- 公共施設を住民が利用した上で必要性を判断すべきであり、そのためにはより多く集客できるような周知PRが必要ではないか
  - 話題は時間が過ぎると風化するものなので、価値を再認識してもらうようなPRをすることが重要ではないか
  - 文化祭の日程や体育館の個人利用が可能であることを知らなかったの、もう少し広報に力を入れてほしい
  - イベントの告知について、直前のリマインドも重要ではないか

### 3-1 命を守るための機能【公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”】

災害などの緊急時に対応できるような整備済の設備があってはじめて災害対応になる。財政面も考慮し、防災機能に特化したコミセン、日常機能を重視したコミセンに分ける手法もあるのではないかという意見も出ていた。一方、これまでの対話では命を守るための機能に、収益性の視点は出てきていない。他に意見はないか

- コミセン含め、災害拠点になりうる公共施設の洗い出しをするのが良いのではないか
- どの施設がどの災害（地震、津波や洪水などの水害、原子力災害等）に特化して対応していくかについて内容整理することが重要ではないか
- 行政で災害に対する基本計画を策定していると思うので、それに対して住民としての補足意見をした方が良いのではないか
- 自分ごとと化会議では、災害対策よりも、公共施設に求められる日常生活の中での命を守るための機能を考えることが重要なのではないか
- 災害は日常の延長線上にあるので、防災機能に特化したコミセン、日常機能を重視したコミセンを完全に分ける必要はないのではないか
- 日常的に災害訓練する場所としてコミセンを活用するのはどうか
- 収益性を考慮すると、非常用電源発電設備を導入したとしても稼働率によっては、不要だと判断される可能性があるのではないか

ナ) 企業協賛などを集め、災害避難を想定した「大人のお泊り会」などの企画をするのはどうか。その際に参加費を取ることもアイデアの一つではないか

所管課) 近隣の市町村とは災害協定は締結している

### 3-2 安心のための機能【公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”】

収益化よりも本質的にサービスが必要な人に届けることが重要であり、絆については、行政と指定管理者である社会福祉協議会との密接な連携も必要ではないかとの意見があった。他に意見はないか

- 各館の利用率でなく、本当に必要な人にサービスが届いたことが分かるような指標を設定すべきではないか
  - 本来、公共施設の目的は民間でできないサービスを提供することであり、長期的な視点で見ていくものではないか
  - 不登校の学生の中で勉強したい人が利用できる場（サードプレイス）や、不登校になった学生の親御さんが、不安を共有できる場として集まれるような場所にしても良いのではないか
  - 当事者やその家族が介護や病気などをひとりで抱え込むのではなく、同じような悩みをもっている人たちと一緒に話し合えるような認知症カフェなどの心のよりどころになる場所づくりや専門家への相談窓口として位置づけるのはどうか
  - サービスが必要な人に対して、求められる機能を持つ民間施設を紹介してくれるような機能を持たせることも重要ではないか
- ナ) 困ったときは行政に頼りやすいが、自立できている人が多い村が良い村なのではないか
- ナ) 安全には、心理的安全や身体的安全など多くの意味を含んでいるので、整理する必要があるのではないか
- ナ) 安心のための機能と特定の公共施設を紐づける必要はないのではないか。例えば、子ども食堂の設置目的を、福祉分野における貧困対策ではなく、子供たちに安全で美味しい食事を提供することにすることで、この公共施設でも実施できるのではないか
- ナ) 公共施設をサードプレイスとして位置付け、心理的安全を求められるようにするのはどうか
- ナ) 助けを求めるまでの時間を過ごす場所があることが、重要なのではないか

### 3-3 社会的な機能（公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”）

人と人の繋がりや顔の合わせられるような機能があり、一方、収益面では、指定管理者が自由に展開できるような環境を作った上で、その施設の魅力を高めるような方向に持っていくのが良いのではないかとの意見が出た。他に意見はないか

- 隣近所の人を知っていることで防犯対策（安心の機能）や、災害時の援助（命の機能）に繋がると思うので、普段からコミセンを通じて顔を知る役割を持たすのはどうか
- 伝統的なコミュニティも時代とともに変質しているので、地域にこだわらず色々な人の繋がりがあるのではないか
- 地元民しか利用できない雰囲気ではなく、誰もが利用できるようなオープンな機能であってほしい
- 社会的な機能をすべて行政が担うのではなく、民間が得意な分野は分散していくのが重要ではないか

### 3-4 成長のための機能（公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”）

有効活用については、自らを高めるための場所でありそれらを提供できる施設であってほしい。収益性の件については、村民が成長するための機能とのバランスをとりながら、料金体系の見直しや競争原理などで改善を図る必要があるのではないかとの意見が出た。他に意見はないか

- 文化センターは学生が演奏の機会を得ることができる施設であり、成長のための重要な機能である
- 体育館や文化センターを部活動の地域移行の拠点にしていくのはどうか。学生時代の文化スポーツの活動が将来の東海村の文化スポーツの活動の根幹になっていくのではないか
- 異世代のスポーツの交流戦が行える場所として体育館を利用するのはどうか
- サークル等の地域活動を通じていろいろな経験を積んでいくことは大切なので、使いやすい施設であってほしい
- スポーツや文化にこだわらず、機能も限定せずに柔軟なアイデアでやっていくことも重要ではないか

- トレーニング施設の機能を板張りのフロアがある施設に一部移行し、地域の人が通いやすくかつ収益性をあげる工夫をするのはどうか
  - 図書館は「施設レビュー，第1回自分ごと化会議意見のまとめ」では成長のための機能として位置付けているが、落ち着いて学習できる場と考えると安心の機能の要素もあり、必ずしも一つの機能に限定する必要はないのではないか
- ナ) 村のリソースを把握した上で、各公共施設で何ができるか、社会課題解決を含んだアイデアに繋げていけるかが重要ではないか

### 3-5 自己実現のための機能（公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”）

東海村ならではの活力を高める施設であってほしい。収益面では収益性を考えた機能展開を実現する施設にしてほしい。自己実現に向けた機能を担ってほしいとの意見が出ていた。他に意見はないか

- アイヴィルでの創業支援を通じて、東海村の名前を背負った企業が全国的に有名となる、また土着の企業となれば村の税収に寄与する、そういった仕組みを作ることができると良いのではないかと
- アイヴィルは貸し館なので、講座を企画するのはどうか
- アイヴィルは、若い人向けに東海村の企業の募集や結婚相談所のような機能を持たせ、東海村の結婚相談所を使って結婚し村内に住んだら住民税を割引するといったアイデアはどうか
- 条例改正も含めて、また民間企業の力を借り、柔軟な考え方で施設運営することを考えるべきではないか
- 本来の行政の役割は、住民が行政に要求するものではなく、住民が自発的にやってきたものを、村としてのバックアップした方がもっと進むというところを支援するところではないか

ナ) 公共施設は住民のニーズに基づき建設されたはずだが、いつの頃からか、公共施設は私たちに何を提供してくれるのかみたいな議論になってきているのではないかと

ナ) 出来上がってしまった公共施設を、我々（住民）としてどう活用していったらいいのかを考えることも重要ではないかと

ナ) 自分たちの住んでいる村ではあたりまえと思っていることも、外から見たときにすごく羨ましがられる環境であることもある。村の良いところと問題意識をつなぎ合わせて自分の中でアイデアを持つことは重要ではないかと

#### ◇ 主催者から一言

山田村長) 本来であれば、政策に基づき拠点が必要と判断したのち、公共施設を建設する。しかし、その議論がしっかりなされずに建設された公共施設もある。建設当時と現在を比較すると別の社会課題があり、それを解決するために今ある施設をうまく使う（有効活用）といった発想転換が求められている。

今回の会議では、住民のみなさんの対話の場であるため発言はしていないが、役場としても考えていることがあり、説明できていない部分もある。各公共施設の機能を高めるために、村は何をしてくれるのかという疑問には、村は村できちんと考えていきたいと考えている。

参加者のみなさんには対話をしていく中で、自分の中での気づきや何か行動に結びつくような機会になれば良いと思っている。

#### ◇ 閉会